

呼びかけ、呼びかけられ、異分野や他団体の皆さんと協働や連携の輪が広がった一年でした。

■彩の国さいたま人づくり広域連合「平成29年度政策課題共同研究」に参加。

同広域連合では、県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働による「産民学官・政策課題共同研究」を行っており、様々な主体が集まって、埼玉の未来を共に考えています。29年度の研究テーマのひとつである『公共空間の利活用による地域活性化プロジェクト～公民連携で多様な「場」をつくるには～』に、当協議会・景観まちづくり部会の大塚茂仁 部会長が研究員として参加しました。

「河川の利活用」グループのリーダーとして、これから第一線で活躍していくであろう若手行政職員などと共に、平成29年5月～30年2月までの10ヶ月間、毎月1～2回のフレンドワークやグループ討議など研究活動を重ね、平成30年2月13日(火)の発表会には素晴らしい成果がまとまりました。



■福祉分野との連携で、当協議会の若色欣爾 代表が講師を務めました。

【文教大学地域連携フォーラム・シンポジウム】

福祉の問題は多様化・複雑化し、行政や福祉専門職だけではその解決・軽減が難しくなっています。昨年度、国は「地域共生社会の実現」を基本方針として打ち出し、地域の住民主体の課題解決力強化・包括的な相談支援体制づくりを推進していく方向です。これを受け平成30年1月20日(土)、越谷・草加市内の自治体・地域団体・大学が連携して取り組んでいる地域づくりの事例を報告し、地域共生社会の実現に向けての協力連携体制について考えるフォーラムが開催されました。この中で「地域資源の活用～空き家をテコに～」をテーマに、当協議会の若色欣爾 代表が講師を務めました。参加者は30名程、当協議会関係者も5名参加しました。

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/human-in/archives/610/>

【横浜市社会福祉士会研修会】

人口減少化・空き家の増加・社会的孤立・生活困窮などの問題が、地域の治安・就労・所得・教育などにも影響を与えており、既存の福祉サービスや援助の方法だけでは問題の把握さえも困難になっています。そこで「今、ソーシャルワーカーに求められる新たな知見」と題して、3回連続講座の1回目が平成30年1月21日(日)に行われました。別領域とされる研究者・実践家を討議の場に招き交わることで新しい援助の手法・連携を共に考えるという趣旨で、当協議会 若色代表は「コミュニティ作りはここまで来ている」の講義を担当しました。

<http://www.kacsw.or.jp/publics/index/484/>



※詳しい報告書はホームページで見ることができます。
<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/seisaku.htm>

講義・講演を終えて、若色代表に感想をきました。



若色：文教大学との連携も6年目となります。今回のフォーラムの趣旨が当協議会の活動方針である「公民連携ですすめる共助社会の住まい・まちづくり」に近く、時代の流れに沿っていると感じました。

また社会福祉士の研修会は、当協議会の活動とは場違いな感がありました。社会的弱者と常に接しており、職能的使命感が強い方が多いと感じました。哲学者である蝶名林亮先生のお話から、社会福祉士の倫理規定が医療のそれに比べて、非常に重いことが分かり、改めてソーシャルワーカーの重要性を再認識しました。

今後、地域福祉のまちづくりにおいて、異なった分野の連携が活発になって来ると思われます。

この他、1月25日の【草加ソーシャルビジネスネットワーク主催の講演会】では、地域課題解決ビジネスの先進的な取組み紹介として、空き家・空き地の活用による街なか居住の推進について発表を行いましたが、本物の住民参加や協働のまちづくりが問われる時代が来ると感じました。

https://www.jfc.go.jp/n/seminar/pdf/seminar180112_2.pdf

2018
SPRING
Koshi-machi news
Vol.8

こし-まち だより

■編集・発行 越谷市住まい・まちづくり協議会 ■事務局 埼玉県越谷市宮本町2-185-12 TEL.048-965-5358 FAX.048-966-7066

共助社会の担い手として、公共空間を考える。

平成29年度、NPO法人越谷市住まい・まちづくりセンターは、埼玉県共助社会づくり支援事業の採択を受け「人の集まる公園創造事業～人と人とがつながる場所づくり～」を実施しました。

■公共空間の整備や管理を 行政と市民が共に進めるために

元荒川と旧日光街道が交わる大沢橋のたもと。この地には、江戸時代から約400年続いた越ヶ谷宿最古の老舗料亭「餾舎屋」がありました。数年前に火事で閉店を余儀なくされ、越谷市が土地取得後は空き地の状態でした。越谷市中心市街地活性化基本計画で公園整備が事業想定されていましたが、これを知る市民は少なく、日頃から公共空間への市民の関心は決して高いとはいえませんでした。

そこで本事業では、わかりやすい説明の重要性や、活動内容の公開の必要性をアピールするため、公園整備案を



公園予定地は大沢橋の北詰

11月5日イベント、一日限定！PARK DAY



イメージしやすいように模型や画像を用意し地域住民と一緒に公園について考える機会をつくることを提案しました。

■地域の協力を得て 手づくりイベント実施

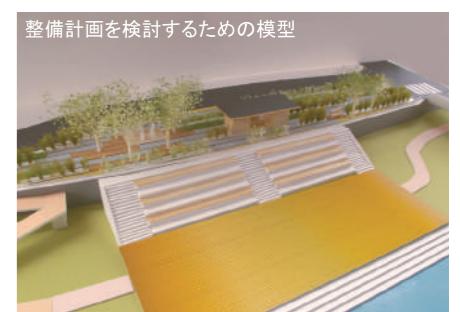
まず平成29年10月14日(土)に越谷駅前の市民活動支援センターで「越谷市の公共空間を考えるフォーラム」を開催。模型を囲んで、越谷市民・越谷市職員・大学教員・その他市外からの参加者と意見交換を行うことができました。

また、11月5日(日)には公園予定地にて「一日限定！PARK DAY」イベントを開催。地元商店の出店、プロのミュージシャンや市民によるライブ演奏、越谷市住まい・まちづくり大学修了生等のボランティアによる会場設営など、多くの皆さんのご協力を得ることができ、当日は天気にも恵まれて多くの来場者が盛り上りました。

現地でのアンケート結果で、整備案検討においては模型やイメージ画像などコミュニケーションツールが役立つとの回答が90%を超えることになりました。また、公園になることを知らな



10月14日フィーラム、模型を囲んで熱心に意見交換



かつた地域住民から公園を良くして欲しいとの声を頂いたり、さらに、この敷地にかつて住んでいた方から「自分の思い出の地を盛り上げてくれてありがとう」と喜びの言葉を頂いたことは、予想外のできごとであり、活動の手ごたえを感じました。

なお、この事業の審査に当たっては「先駆的な取り組みですので、業務内容を県内全域に周知できるよう広報活動に努めてください」という付帯意見付き採択を頂きました。今後も活動について発信を続けていく予定です。

<https://www.facebook.com/osawa.river.sidepark/>

私たちは、空き家・空き地を活用して、街なか居住の推進を図っています。

スタートから6年、続けることで活動の成果が実ってきました。



旧チャレンジショップ「夢空間」外観

全国各地で深刻化している空き家問題。当協議会では、平成24年度に越谷市の空き家・空き室の実態と利活用の可能性を探るために調査・研究を行い、25年度からは定期的に「相談会」を開催。利用されていない空き家等を顕在化させ、住宅ストックの有効利用を図ってきました。同時にネット上に開設した「空き家バンク」も、徐々に登録件数や問い合わせが増加し、TV・ラジオなどの取材も受けるようになりました。

今年度は、オーナーから預かった物件を会場にして、事務所・店舗・居住などに活用したい、借りたいという方を対象に見学会やリノベーションセミナーを実施しました。こうして当協議会のコーディネートやアドバイスによる活用実績が実ってきましたので、今号は越ヶ谷本町の事例をいくつか紹介します。

●旧チャレンジショップ「夢空間」

同物件は、平成17年より越谷商工会（現商工会議所）が借り受け、主に起業を支援するため、1階フロアを5つのブースに仕切って個人事業主等に貸し付けていましたが、平成28年3月に閉店した後は空き店舗となっていました。

一方、地域で子育て中の母さんたちが月1回程集まって子どもカフェ・食堂を運営していました。場所は定休日のお店や自治会館を借りていましたが、口コミで参加者が増えていくうちに「居場所」の大切さを実感するようになりました。いつでも自由に利用でき、子どもだけでなく大人の居場所にもなる地域サロンのような拠点が欲しいと考えるようになりました。

そんな折、「旧・夢空間」で行われた「空き家活用ワークショップ」に参加し、当協議会のアドバイスのもと事業計画や改修計画を作成。母屋の1階部分を改修してこどもの居場所「ぼらむの家」として利活



専門スタッフのアドバイスで利活用計画を策定中

用することに決めました。

同様に、1階店舗部分には子どもの工作教室、2階にITベンチャーの事務所が入居して、大きな建物を3グループでシェアすることになりました。ITベンチャーも子ども向けパソコン教室等を開催してくれることになり、地域の子どもの新しい居場所づくりが始まりました。

平成30年4月23日、改修工事を終えて開店した「越ヶ谷こどもかふえ食堂」（毎週月曜日16:30～20:00）に110名の方が来店されました。このほか放課後の居場所としての開放、地域の方を講師に得意なことを教えてもらう「まちの寺子屋」、



中心市街地活性化と古民家再生の視察研修で、善光寺門前町を訪問。



倉庫や工場が洒落たショップに再生

平成29年8月27～28日、蔵や古民家の修復・再生から活用までのエリアマネジメントによる手法、行政との連携、まちづくり会社の組織や運営など、事業を確立するためのヒントや課題を学ぶため、有志9名で長野市善光寺門前町を訪れました。

訪問先は主に3ヶ所。空き家活用の民間の仕掛け人として中心的役割を担う「株式会社マイルーム」では、エリアを限定することで、オーナーと利用者を直接結びつけ新たな利活用へと導いています。

「長野市役所市街地整備課」では、中心市街地遊休不動産活用事業の全貌を聞き、行政がやるべきことと市民や民間会社を支援していくことの両輪で取り組んでいることがわがえました。「株式会社まちづくり長野」では、特に蔵を再生して複合商業施設として活用している実例と、その組織や運営形態について学びました。産官民協働のひとつの形を見ることができました。



「ばていお大門 蔽楽庭」明治・大正に建てられた約10棟の商家や蔵を再生した商業施設



旧日光街道沿いの「はかり屋」外観

●糀屋(都築家RC造の蔵)

平成30年2月28日のNHKおはよう日本でも放映されましたが、全国的に珍しい大正時代に造られたと思われるRC造の蔵です。都築家は代々味噌屋さんで栄えていましたが、戦後、信州味噌や尾張の赤みそに押され衰退したようです。糀屋の味噌は原料が麦で、広大な麦畑も所有していたなど、今回、蔵に



あった古文書や絵図面等から当時の模様が少しずつわかつってきたようです（越谷市郷土研究会による）。

この度、当協議会のコーディネートにより、NPO法人越谷市郷土研究会が観光案内所兼事務所として、1階の一部を使うことになりました。今後は、越谷市郷土資料館として全館を活用するため、今年度中に事業計画を策定する予定です。



大正時代の珍しいRC造の蔵



「はかり屋」店舗へつながる石畳の路地



「はかり屋(旧大野家)

旧日光街道沿い、明治38年より約120年にわたって越谷のまちを見つめ続けてきたお屋敷、旧大野邸 稲屋（はかりや）が、平成30年春、こだわりのショップやレストランを備えた古民家複合施設「はかり屋」として生まれ変わりました。この建物は株式会社中央住宅が保有し、運営を担当するまちづくり会社に貸し出し、越ヶ谷宿の賑わいの再生に取り組んでいます。当協議会も活用方法についての視察研修の実施や企画についてアドバイスを行ってきました。

3月の宿場まつりに併せたお披露目には1万人が訪れ、宿場町の風情残る古民家から新しい風が吹き始めました。

越ヶ谷宿の古民家や蔵の活用は少しずつ進んでいますが、今後は旧日光街道を一方通行にして、歩行者が安心して歩けるような街路整備も推進していく必要があるため、今年度から越谷市中心市街地活性化推進会議を定期的に開催する計画です。

Topics

■まち蔵（まちづくり相談処：油長内蔵）

昨年度オープンした「まち蔵」では、平成29年2月18～19日に「越谷市の建築家展」、7月5日はNHKラジオ「旅ラジ」の中継車が来訪し生放送、7月3～14日越ヶ谷市景観写真コンクール作品展、3月3～4日越ヶ谷宿場まつり春の雛巡り特別展示などが開催されました。このほか「まち蔵カフェ」が毎週金・土・日曜日に、「シニア生きがいまち蔵カフェ」が第2・4木曜日に開店しています。

イベント情報やご利用案内など詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.machi-kura.com>

■越谷市住まい・まちづくり大学2018

住まい・まちづくりの担い手発掘・育成を目指す「越谷市住まい・まちづくり大学」は、2012年の開校以来5年間、毎年テーマを定め6～7回シリーズの連続講座で、後半ワークショップの研究成果を越谷市景観シンポジウムで発表してきました。この間、受講者数は延べ598人、修了証書授与者は51名を数えます。今年度（第6期）からは、地域の課題となっているテーマを取り上げ、興味のある講座にその都度自由に参加できるオープンセミナー方式で開催しました。

■第1回／平成29年7月8日（土）

「既成市街地の空き家・空き地を活用した街づくり」
講師：田村誠邦氏（株式会社アーケフレイン代表取締役、明治大学理工学部 特任教授）

■第2回／平成29年10月13日（土）

「まちづくり、地域に見合った土地利用について考える」
講師：武田敦弘氏（埼玉県都市整備部都市計画課 総務・企画担当主幹）

■第3回／平成30年3月10日（土）

「共助社会における官民連携のあり方」
講師：大塚茂仁氏（大塚デザインスタヂオ代表、当協議会・景観まちづくり部会長）



今年度の講座は全3回実施



※公民学の連携・協働の住まい・まちづくりを推進する当協議会は、より継続可能で実効性ある活動を目指し、組織改編をしていきます。活動予定や事業報告などは、メールマガジンやホームページで紹介しています。詳しくは、<http://www.koshi-machi.com/>または「越谷市住まい・まちづくり協議会」で検索してください。